

栃木県立真岡女子高等学校

JRC部

高校生ボランティア・アワード2024

「地域とのつながりを力に！」

- ① そらまめ食堂（就労継続支援B型）での活動
- ② 児童館への大型カレンダー作成
- ③ 図書館プロジェクト（年2回）
（今年度は福祉カルタやポッチャ）
- ④ 障害平等研修会
（障害者をファシリテーターにむかえ、
障害についてグループ学習）
- ⑤ そらいろコアラkidsクラブ参加
- ⑥ 真女生とリフレッシュ（ハンドケア）
- ⑦ コラボレフェスティバル参加
- ⑧ 地域の母子会とクリスマス作り
- ⑨ 学校の最寄り駅の清掃
- ⑩ 学校祭でのマサイビーズの販売
- ⑪ 廃棄傘によるアンブレラスカイ
（真岡市青年会議所と共催）
- ⑫ 真岡すきすきシェアクラブ
（真岡市内のカフェマップを作製）



「福祉全力女子凌雲之志」

◆私たちが活動の目的としていることは、
障がい者を理解して一緒に何かをすること、
学校がある地域を盛り上げること、
住民同士が交流できるお手伝いをする事、
JRCの研修で身に付けたリーダーシップや
講習会で得た知識・技術を活動に活かすこと、
社会に関心を持ってニーズに気づくこと、です。
なかなか自分で気づくのは
難しいのですが、県の研修会
に参加してJRCの精神を学
び、日常の中で気づいたことを
改善したいと考えています。



「気づき」の中で、昨年取り組んだこと

- ① クラスのごみ箱を清潔に！
（全校生徒に呼びかけ、アンケート）
- ② 学校の自転車置き場の整頓
（ポスターの作製）
- ③ 献血を広めよう
（幼児～小学生向けの
紙芝居作成）
- ④ 障害者理解の促進
（ポスター作製、交流会）



献血紙芝居

障害者理解促進ポスター

「地域とともに心豊かに」

図書館プロジェクト

図書館プロジェクトは小学生を対象に障害者への理解を深める活動しています。「おはよう」や「おいしい」などの簡単な手話をクイズ形式で覚えてもらったり、家族に点字でクリスマスカードを作ったり、車椅子に乗る、押すという体験してもらっています。私たちが社会福祉協議会の方のご指導を受け、本番に臨みます。



そらまめ食堂

そらまめ食堂は多機能型事務所であり、何らかの障害を持っている方が働いています。そらまめ食堂では七夕やハロウィン、クリスマスなどのイベントが行われます。また、「まめっこ食堂」という、こども食堂+地域食堂も2週間に1度行われています。その時にボランティアに行きます。障害の有無に関わらず、そらまめ食堂に来た人は、みんな楽しく食事や会話を楽しんでいます。



学校祭

毎年マサイビーズの販売を行っています。マサイビーズはケアの学童とその家族がビーズで作る民芸品です。昨年は37400円の売上を送ることができました。異文化理解とSDGsの目標達成に繋がります。他に点字体験や募金を行いました。



「地域密着型の部活動に無限の可能性～私たちの夢一願」

“夢”は英語で“DREAM”ですが、この“DREAM”を辞書で引くと、“願ひ・理想”という言葉が出てきます。私たちの夢一願とは何か。私たち真岡女子高校JRC部は創立110年を超える伝統校で勉強に励みながら、限られた時間を利用して日々ボランティア活動に邁進しています。今や代名詞とも言える活動となった「図書館プロジェクト」では、市立図書館やNPO法人そらまめ食堂さん、市社会福祉協議会など様々な組織の方々との協力しながら実施約1年前から準備を進めています。単に高校生ならではの視点ではなく、部員67人67様の視点から障害者理解に努め、試行錯誤を繰り返しながら企画を完成させていきます。

他にも、私たちの強みである規模の大きさを活かして幅広い活動を行っていますが、全てに共通していることは地域密着型であることです。真岡市総合政策課から声をかけていただいた「すきすきシェアクラブ」で真岡市の魅力を発信したり、市民活動推進センターや社会福祉協議会からイベントの声をかけてもらったり、私たちの活動は地域の方々の支えがなければ成り立ちません。そしてそのサポートが当たり前にあるものではないことをこの数年の間、コロナ禍において何度も痛感しました。

地元を愛する心。それが私たちの活動の原動力です。
「みんなの笑顔が見たい！」その一心で

私たちはこれからも活動をより発展させながら続けていきます。わたしたちの願いはボランティアを通じて地域に恩返しをしていくことです。



真岡女子高校 JRC部プロフィール

昭和55年より青少年赤十字に加盟し活動している。地域住民や、市の公共施設の交流とともに、20年以上継続している活動に加えて、地元での新たな活動を開拓し、地域の人と繋がりが広がって進化している。
特に、障がい者就労のNPOが運営する食堂（そらまめ食堂）での交流により、障がい者への理解が深まったことで、障がいのことまもつ世の中に分かってもらいたいという強い気持ちが生まれ、そらまめ食堂、市立図書館、JRC部とで始めた障がい理解啓発イベント、「図書館プロジェクト」での企画運営が、現在部活の中心となっている。
毎年、県役員の輩出や、JRC全国研修に推薦されるなど、栃木県内で活動の盛んな高校の一つである。部室には今までの先輩たちの努力と歴史が詰まっており、現在に受け継がれている。